

平成25年度全国水産試験場長会全国大会（岡山）

要 録

期 日 平成25年11月14日（木）

会 場 ピュアリティまきび
岡山市北区下石井

主 催 全国水産試験場長会

目 次

1	大会の構成	
1)	大会日程	1
2)	大会次第	2
3)	出席者名簿	3
2	挨拶	
1)	会長	4
2)	来賓	5
3)	開催県	8
3	報告	
1)	平成24年度活動結果および平成25年度活動計画について	10
2)	国への要望「地域の抱える懸案事項」等について	11
4	情報交換	
1)	内水面で最近問題となっている魚病について	28
2)	その他（情報交換）	39
5	話題提供	
1)	岡山県における水産業と水産試験研究の現状	42
6	優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰	
1)	審査委員長経過報告・講評	52
2)	会長賞表彰式	53
3)	会長賞受賞記念講演	
	・免疫染色法を応用したホタテガイ幼生判別技術の開発	58
	・一都五県水試等による高精度海況図の作成技術開発及び共同発行 並びに高精度海況図の活用	70
	・電気ショックカーポートによる外来魚駆除方法の開発と普及	82
7	関係写真	95

1 大会の構成

1) 大会日程

平成25年度全国水産試験場長会全国大会（岡山）

大会行事	開催日時・開催場所
全国大会	平成25年11月14日(木)13:30~17:00 ピュアリティまきび（岡山市北区下石井）

2) 大会次第

平成25年度全国水産試験場長会全国大会（岡山）次第

開催日時：平成25年11月14日（木）13：30～17：00

開催場所：ピュアリティまきび（岡山市北区下石井）

1 開 会

2 挨拶

- 1) 会長
- 2) 来賓
- 3) 開催県

3 報 告

- 1) 平成24年度活動結果および平成25年度活動計画について
- 2) 国への要望「地域の抱える懸案事項」等について

4 情報交換

- 1) 内水面において最近問題となっている魚病について

5 話題提供

- 1) 岡山県における水産業と水産試験研究の現状

6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式

- 1) 審査委員長経過報告・講評
- 2) 会長賞表彰式
- 3) 会長賞授賞記念講演

7 その他

8 閉 会

3) 出席者名簿

平成25年度全国水産試験場長会全国大会出席者名簿

開催日：平成25年11月14日

開催場所：ピュアリティまきび

	機関名	役職名	氏名
国等関係機関	水産庁増殖推進部	部長	香川 謙二
	水産庁増殖推進部 研究指導課	課長補佐	盛 高明
	(独)水産総合研究センター	理事長	松里 壽彦
	(独)水産総合研究センター	研究主幹	中田 薫
	(一社)全国水産技術者協会	理事長	原 武史
	(一社)漁業情報サービスセンター	専務理事	為石 日出生
	(公社)全国豊かな海づくり推進協会	技術顧問	古澤 徹
	東京海洋大学 海洋科学部	准教授	根本 雅生
	岡山県農林水産部	部長	佐藤 一雄

<海面>

北海道	(地独)北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	本部長兼場長	鳥澤 雅
	(地独)北海道立総合研究機構 水産研究本部 栽培水産試験場	研究主任	清水 洋平
東北	(地独)青森県産業技術センター 水産総合研究所	所長	天野 勝三
	岩手県水産技術センター	所長	井ノ口 伸幸
	宮城県水産技術総合センター	所長	山岡 茂人
	福島県水産試験場	場長	八多 宣幸
	茨城県水産試験場	場長	高島 葉二
北部日本海	秋田県水産振興センター	所長	中村 彰男
	富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	所長	佐藤 建明
	石川県水産総合センター	所長	安田 信也
東海	千葉県水産総合研究センター	センター長	塩野 健
		主席研究員	石井 光廣
	東京都島しょ農林水産総合センター	振興企画室長	工藤 真弘
	神奈川県水産技術センター	所長	米山 健
	静岡県水産技術研究所	所長	田中 眞
	愛知県水産試験場	副場長	岩田 靖宏
	三重県水産研究所	所長	遠藤 晃平
	主幹研究員	久野 正博	
	和歌山県水産試験場	場長	中西 一
瀬戸内海	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	水産研究部長	有山 啓之
	兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	所長	山村 雅雄
	広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター	センター長	赤繁 悟
	香川県水産試験場	場長	坂本 久
	愛媛県農林水産研究所水産研究センター	センター長	佐伯 康明
	愛媛県農林水産研究所水産研究センター 栽培資源研究所	所長	金尾 聡志
	高知県水産試験場	場長	松村 春樹
西部日本海	福井県水産試験場	場長	杉本 剛士
	京都府農林水産技術センター海洋センター	所長	葭矢 護
	鳥取県水産試験場	場長	下山 俊一
		研究員	尾田 昌紀
	島根県水産技術センター	所長	中東 達夫
	山口県水産研究センター	所長	井玉 貢
九州・山口	福岡県水産海洋技術センター	所長	半田 亮司
	佐賀県玄海水産振興センター	所長	川原 逸郎
	長崎県総合水産試験場	場長	藤井 明彦
	熊本県水産研究センター	所長	梅崎 祐二
	大分県農林水産研究指導センター水産研究部	部長	壽 久文
	沖縄県水産海洋技術センター	所長	山本 隆司

<内水面>

東北・北海道	(地独)北海道立総合研究機構 水産研究本部 さけます内水面水産試験場	場長	永田 光博
		主任研究員	工藤 智
	岩手県内水面水産技術センター	所長	奥山 勇作
関東・甲信越	栃木県水産試験場	場長	加賀 豊仁
	神奈川県水産技術センター 内水面試験場	場長	水津 敏博
	山梨県水産技術センター	所長	高橋 一孝
東海・北陸	岐阜県河川環境研究所	所長	松永 良治
近畿・中国・四国	滋賀県水産試験場	場長	澤田 宣雄
	鳥取県栽培漁業センター	所長	古田 晋平
	高知県内水面漁業センター	所長	溝渕 勝宣

<事務局>

開催県	岡山県農林水産総合センター 水産研究所	所長	山野井 英夫
		副所長	萱野 泰久
		水圏環境室長	藤井 義弘
		資源増殖室長	佐藤 二郎
		内水面研究室長	近藤 正美
		研究員	高木 秀蔵
		技師	村山 史康
	技師	竹本 浩之	

2 挨拶

1) 会長

あ い さ つ

全国水産試験場長会

会長（長崎県総合水産試験場長）藤井 明彦

長崎県総合水産試験場の藤井でございます。今年4月から、田添前会長のあとを引き継ぎまして、会長をさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

会員の皆様には、お忙しい中、第3回全国水産試験場長会全国大会にご出席いただきありがとうございます。また、公務ご多用中にも関わらず、水産庁から香川増殖推進部長様、水産総合研究センターからは松里理事長様、開催県の岡山県からは佐藤農林水産部長様、その他多くの来賓の方にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

皆様方には日頃から全国水産試験場長会の活動に対してご協力とご支援を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

全国水産試験場長会は、平成23年度に新たに生まれ変わり、その活動の柱である全国大会を、ここ岡山県で迎えることができました。開催にあたって多大なご尽力をいただきました岡山県水産研究所の山野井所長を始め関係者の皆様に、心から感謝を申しあげます。

さて、改めて申しますまでもありませんが、全国水産試験場長会は、会員自ら汗をかき、緊密な連携と情報交換を行うことで、課題の効率的、効果的解決を目指すとともに、国の水産行政、研究機関、漁業関係関連団体など、迅速に情報を発信し、認識を共有することにより課題の解決、技術開発に向けた取組の加速化を図って持続的な水産業の振興に貢献することを目的として活動を続けております。今は東日本大震災で、甚大な被害を受けた水産業の復旧、復興、東京電力福島第一原子力発電所の事故に対する水産物の安全確保、資源変動や新たな疾病の発生、地球温暖化を始めとする環境変化への対応など、水産業界はこれまでも増して非常に厳しい多くの課題に直面しております。そのため私たちが各地で抱える課題を迅速に解決し、資源の持続的な利用や養殖生産の安定などを支えるための技術力がいっそう問われる時代になっております。

本大会で表彰される方々の業績のように、全国に発信・普及できる技術や情報を今後も効果的に生み出すためには、会員相互、関係機関との連携など本会の活動を益々充実させることが重要であると考えております。こうして一同に会する機会は年に一度のことです。限られた時間ではありますが、忌憚のない意見交換、情報交換を行い、課題解決に向け一歩でも前進できる取組に繋げて参りたいと存じます。

最後になりましたが、地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部のご支援と同鳥澤本部長のご協力の下で、10月22日に全国水産試験場長会のホームページを開設することができました。今後は、水産振興に役立つ情報や成果はホームページで積極的に発信して参りたいと考えておりますので、積極的なご活用をお願いいたします。本日は、ご参加の皆様方のご協力により有意義な会になりますよう祈念いたしまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

2) 来 賓

あ い さ つ

水産庁

増殖推進部長 香川 謙 二

水産庁増殖推進部長の香川でございます。

日頃皆様方には、水産業の発展を図る観点から、試験研究、それから技術開発の推進にご尽力いただきまして厚くお礼申し上げます。

また、開催県であります山野井所長さんを始め岡山県の方々にご尽力いただいたことに対して、感謝申し上げます。

水産業は非常に厳しい状況であるということは、皆さんご承知のとおりでございます。これを改善するために、私どもも色々と施策を執り、予算を取っていきたいと考えております。今日は、私どもが今考えていることを申し上げたいと思います。私どもの予算は、26年度要求につきましては、漁業の経営対策でありますとか、地域対策、外国漁業の対策、漁港とか、こういうものが予算的には非常に多いわけですが、是非これは取り上げていかないと、将来のために非常に重要だと思っていることが2つ3つございます。

まず、1つは、消費と輸出の拡大でございます。ご承知のように、いわゆる魚食が非常に落ちてきて、そのために非常に価格が落ちているということがございます。一方において海外を見ますと、魚の消費は拡大しております、非常に価格も良いものになってきているということでございます。国内でそういう復帰をするとともに、輸出の拡大についても是非、積極的にやっていかなければいけないと考えています。そういう面で、輸出をする際には、品質の向上とか衛生管理とか、そういうところが非常に問題になってきますし、HACCPの問題もございます。是非そのような面で試験場の方々にもご協力をいただきたいと思っております。

2点目は、増養殖でございます。特にご承知のように、ウナギ、クロマグロ、さらにサケも今年はまだ良いようですけど、ここ数年非常に回帰が悪いという状況でございます、特に、クロマグロとウナギについては、3年後のワシントン条約というのもございまして、種苗の確保とか、貿易も輸入もできないということになりますので、非常に我々は危機感を覚えております。そういう中で、クロマグロについては、長崎に施設もできましたので、これから卵を採っていくということになると思いますが、ウナギについても、是非早急にシラスの大量生産の目処を付けたいと思っております、来年なんとか大量生産に向けた予算を確保したいということで今やっているところでございます。また、サケにつきましても、震災の時に稚魚がかなり少なくなったんじゃないかということで、回帰が非常に心配される場所ですので、4年ごとに不漁が起きることのないよう、来年は親魚の確保という点でも対策を打ちたいと思っております。あと、当然のことながら放射能の問題については非常に深刻な問題でございますので、引き続きこの放射性物質の調査研究については、全力を挙げて、風評被害に対しても、海外に対しても適正なデータが提供できるようにやっていきたいと考えております。

行政の話しを申し上げましたが、ひとえに研究サイドのご支援がなければこれはすべてできませんので、是非これからも、よろしくご協力をいただきたいと思います。それぞれ各県によって財政状況も厳しいと思いますが、今後とも試験研究を含めて、水産業や漁業者のために、是非何とか色々対策をしたいと思っております。これらのことをお願いいたします、私のご挨拶にさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

あ い さ つ

独立行政法人 水産総合研究センター
理事長 松里 壽彦

水産総合研究センターの理事長の松里でございます。

本日は昨年に引き続き全国水産試験場長会全国大会にお招きいただきまして誠にありがとうございます。大会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。水産研究所では最近何をどうしているかをお話しして、今日のご挨拶に代えたいと思っております。

11月7日に岩手の宮古市にある私たちの宮古庁舎が完成いたしました。これは規模も昔と全く同じ大きさとなっておりますが、機能的には単に種苗を作るだけではなく、東北、北海道を含めた北日本全体の増養殖の拠点として機能するように予算の中でできるだけことをさせていただきました。本当に水産庁さん、ありがとうございました。中身は細かくなりますが、例えば同じ施設の中でサケ、マスも飼えるというのは、珍しいんだろうと思います。地下水が採れますので、サケ、マスのふ化、飼育ができる。それと今までどおり海産魚もありますし、特に今後力を入れたいと思っている貝類の増養殖の研究施設も作っていただきました。それから海藻、そしてサケ、マスをもう少し充実したい。

私たち自身も宮古を含めて、東北は大震災で大変な被害を受けており、現在も新しい施設のすぐ側にまだ仮設住宅が残っており、皆さんまだ本当に立ち直っていないわけです。私たちはできることは何でもしようということで、震災のあと横浜の本部にも、復興対策の本部を立ち上げ、さらに東北水研の中にも現地本部を立ち上げ、できることは何でもする、何でもというのは乱暴な言い方なんですけど取り組んで参りました。例えば、水産工学研究所では、壊れた漁港の対策等の事前調査もやりましたが、それよりもユニークなのは、常日頃から水産工学研究所は漁船の安全性について研究しており、そのことで日本の各地の小さな造船所とも仲が良く常日頃からコンタクトを取っている。それで一番に宮城県の方から頼まれたのは、沿岸で使う小さな漁船はどこも作ってくれない、何とかしてくれということで、これは研究として支援しているかどうかは別として、自分たちの持っているノウハウ、地縁、人との繋がり、全て動員し造船所を紹介して、造船所紹介業というのがあるかどうか知りませんが、そういうことでもお手伝いしました。それから、貝桁で有名な漁場がございますけれど、そこは色んな瓦礫があつて曳けないと、小さい船ですから、危なくてとても曳けない、何とかならないかということで、急遽無い知恵を絞って、タオル地で作った袋網を使ってその瓦礫を集め、持ち上げて陸上へ揚げるということではなく、

漁場から除去して一カ所に集める網を開発してみたり、それは学問かと言われれば学問ではないのかもしれませんが、自分たちの持っているノウハウを少しでも役に立てたいということで、例えて水工研の話しをしました。一生懸命やってきました。

放射能については水産庁のご指導の下、きちんとした体系ができていたはずで、私たちも水産庁と一緒に、それを守ってきたつもりなんですけれど、私たちも能力を拡大しなければならぬということで、3人くらいしかいなかった中央水研の放射能鑑定を少し拡充強化いたしまして、現在もフル活動しております。本当に朝から晩までやっております。少しでも役に立てればと思って、それぞれが持てる力を発揮しているところです。

宮古の施設でございますが、それを復興していただくには、地元の岩手県、さらに岩手県の漁連の皆さんに陳情までしていただき、予算が確保できたということでございます。幸い予算もかなり付けていただいたので、施設としては非常に充実したものでございます。

先ほど香川部長も触れられておりましたが、長崎県の西海区水産研究所の隣に、クロマグロの産卵調整のための施設を20数億円かけて完成していただきました。完成後直ちに奄美大島から12kgから15kgくらいの魚を100数十匹運びまして、現在90匹位が順調に育ってきているということでございます。これも世界で初めての試みですから、担当者達は必死にやっております、現在19kg以上になっております。できるかどうかというより、やらざるを得ないということで頑張っております。ウナギにつきましては、今現在、志布志や南伊豆、増養殖研の南勢庁舎、玉城庁舎でもやっております、更に今年付けていただいた予算で石垣市にございます昔の八重山の栽培センターですが、そこでも新たにウナギの飼育施設をもう1つ新しく立ち上げるべく、今工事中でございます。

自分たちに与えられた使命は、懸命に尽くそうとしている訳ですけど、県、水産総合研究センター、水産庁も懸命にやっております、予算的には削減されております。例えば栽培系の予算というのは、旧日裁協が統合した時に約12億円くらい持ってきてくださったんです。それはそのまま栽培用のお金ですねってことで私たちも大切にに使わせていただいておりますが、昨今は6億円くらいになって、ちょうど半減いたしました。その様に厳しく削減されております。ですから今ある栽培の施設全部をこれからも維持していくことはなかなか困難でございますが、決して研究レベルを下げるということは考えておりません。むしろいくつかの施設に集中してそこで新たな技術を開拓していきたいというふうに考えております。

時間もございますから、今日の議論の中でお役に立つことがございまして、かつ発言が許されるのなら、私達の方からも積極的に発言していきたいと思っております。最後になりましたが、全国場長会、及び事務局、開催県である岡山県を始めとする関係者の皆様に対し、こういう大会を開会されて色々ご苦勞があったと思っておりますけど、本当にありがとうございました。この会を通じて、研究機関の皆さんと、我々水産総合研究センターの連携が更に強まることを心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3) 開催県

あ い さ つ

岡山県

農林水産部長 佐藤 一雄

岡山県農林水産部長の佐藤です。開催県を代表して一言歓迎のご挨拶を申し上げます。

平成25年度全国水産試験場長会全国大会が、岡山県において盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、北は北海道、南は沖縄県まで全国各地から、当地「晴れの国岡山」へおいでいただいた多くの皆様方を、心から歓迎します。

現在、岡山県では県民一人ひとりが、豊かな人間性のつながりの中で快適にいきいきと生活することのできる「生き生き岡山」の実現を目指して、産業の振興に全力で取り組んでいるところです。

本県は、南は瀬戸内海から北は中国山地まで多様な自然環境があり、気候も暖かい地域から、涼しいと言いますか若干寒い、雪も降りますので、そういう地域まで幅広くございます。農林水産物の生産には恵まれた環境だと考えております。特に瀬戸内海に面しました南部地域ではノリ、カキに代表されます豊かな海の幸、また、陸地部分では白桃、マスカット、ピオーネなど本県を代表します果物もございます。

さて、先ほど水産庁の部長さんからもお話がありましたけれども、水産業自体は、魚介類の安定供給はもとより、水質や底質ならびに水産資源の保全、伝統文化の継承など様々な多面的な機能を有しておりますが、一方で、藻場・干潟の減少等もあり、厳しい状況になっております。

瀬戸内海自体は、ご案内のように栄養塩の豊富な河川の恵みにより、漁船漁業のみならず養殖業の漁場としても、重要なところでございます。また合わせて瀬戸内海自体が、その生産性は世界的にも類を見ないものと聞いております。

藻場・干潟が減少したこともありまして、過去20年あまりの間に、後ほど本県の職員からも説明があるかと思いますが、本県の漁業生産量は約5割程度に減少しており、非常に厳しい状況にございます。その要因として自然環境の問題でございますが、漁業者の高齢化でございますとか、燃油や資材の高騰、消費者の魚離れといった問題も発生しております。漁村や水産業を取り巻く状況は非常に厳しいと言いますか、転換期を迎えていると感じるところでございます。

一方で昨年3月に閣議決定されました新たな水産基本計画におかれましては、水産業の未来を切り拓く新技術の開発、モニタリング等の基礎的な調査研究の着実な実施を図ることとされており、私どもも微力ではありますが、「豊かな海の恵みで地域を支える漁業」、「県民の豊かな食を支える漁業」の確立を目指し、行政と試験研究機関が一帯となって施策に取り組んでいるところであります。

しかし、今後、多様なニーズに対応するためには、各地域におけます水産試験場単独では十分ではないと考えておりまして、この大会を通じて相互の交流と連携協力関係をさらに発展維持させることは極めて重要であり、一層の技術の研鑽と知識の向上が求められて

おり、それが図られることを心より期待しております。

最後に、お手元に封筒があろうかと思えます。中に後樂園でありますとか、自然岡山の百景とか入れておりますので、もしお時間が許しましたら、茨城の水戸の偕樂園、石川の金沢の兼六園と並ぶ日本三名園の1つである後樂園の方へ足を伸ばしていただけたらと思えます。また、山陽本線で15分ほど乗っていただきますと、倉敷には、白壁の町並みが美しい美観地区に西洋近代美術館である大原美術館がございますので、この機会にお時間が許せば訪れていただきたいと思っております。

終わりに、本大会のご成功と水産業、水産研究の発展並びに本日ご参集の皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

どうもおめでとうございます。